

令和2年度 第2回
筑後川流域治水協議会・矢部川流域治水協議会 合同協議会
議事概要

実施日：令和3年3月26日（金）15:30~17:00

場所：Web会議（ZOOM）

構成員：別紙の通り

- 議事：1）流域治水協議会会員の追加について
2）流域治水プロジェクト（案）について
3）意見交換

議事概要：

- 1）流域治水協議会会員の追加について
 - ・筑後川流域治水協議会に新たに筑紫野市長・太宰府市長・南小国町長・福岡県県土整備部港湾課長・福岡県県土整備部砂防課長・福岡県農林水産部林業振興課長・佐賀県農林水産部森林整備課長・佐賀県農林水産部林業課長・熊本県土木部道路都市局下水環境課長・大分県農林水産部森林保全課長・大分県農林水産部森林整備室長・林野庁九州森林管理局福岡森林管理署長・森林整備センター九州整備局長・水資源機構筑後川局長が参加することを承認した。
 - ・矢部川流域治水協議会に新たに、福岡県県土整備部港湾課長・福岡県県土整備部砂防課長・福岡県農林水産部林業振興課長・林野庁九州森林管理局福岡森林管理署長・森林整備センター九州整備局長が参加することを承認した。
- 2）流域治水プロジェクト（案）について
 - ・「筑後川水系流域治水プロジェクト（案）」「矢部川水系流域治水プロジェクト（案）」について承認した。

意見交換：

- テーマ：流域治水を進めていく上での懸念事項や課題

日田市 原田市長

・管理者が異なるため事業の進捗管理が難しい。国が主導権を持って流域全体での調整を進めて頂きたい。

・ここ 10 年来で相当の災害に関する情報などもそろっているはず。施行後に効果の出た事業など情報の共有をして欲しい。今後の新たな取り組みなど一体的な取組をお願いする。

九重町 日野町長

- ・橋梁に引っかけたのが洪水被害の一因となったことから森林整備が必要と考えられる。
- ・夜間に大雨が降ったときの対応が難しい。カメラの設置がある場合でも見えづらい。避難判断遅れになる可能性が高い。
- ・プロジェクト内の短期的・中期的・中長期的な解決策に関して、特に短期的な対応については、温暖化の状況の中では再度同じ問題が発生するのではないかという危惧がある。
- ・防災教育の推進などハードとソフトを総合的に行っていく必要がある。流域全体での連携・情報の共有が重要。

小国町 渡邊町長

- ・水害常襲地域であるため、自主防衛組織や消防団の、水害時の迅速な避難や応急対応の能力は長けている。そのため人的被害を免れているといった状況。
- ・掘削の効果は実感している。町でも大岩の撤去や倒壊の恐れのある旅館の解体を行った。
- ・地元の流域治水への関心も高い。地元の気持ちを理解して治水対策を検討いただきたい。

うきは市 高木市長

- ・令和 2 年 7 月の豪雨においては、荒瀬観測所で氾濫危険水位の 6.3m を上回る 7.9m が観測され、観測史上最高水位となった。その結果、市内で 7 箇所の氾濫越水があった。
- ・引き続き国交省には筑後川の早期の築堤・土砂浚渫をお願いしたい。
- ・県管理河川と農業用水路の越水による浸水被害が問題だと考えている。
- ・農業用水路の事前放流の効果は未知数であり、利水者に協力をお願いするためにも、効果が説明出来るような事例を教示いただきたい。

東峰村 澁谷村長

- ・村の 85%が山間部であり、過去の出水で流木被害が大きかった。山林対策を全地域で進めていく必要がある。
- ・G 空間情報収集システムのような情報共有ツールを普及させていくことも重要。
- ・高齢化率が 44%となっており、集落単位の防災訓練で要配慮者をどう避難させるかの取り組みを行っている。

朝倉市林市長

- ・桂川で福岡県が遊水地を作ることが具体化している。筑後川合流部が毎年浸水被害を受けており、遊水地には大きな期待をしている。

- ・小石原川ダムが事業完了式を迎え本市には3つ目のダムとなり、いずれも筑後川に流れ込む河川にある。このことも今後の検討に含めていってもらいたい。
- ・国は指示系統をはっきりとしていただいて水門操作等が安心してできるような対策等を是非考えていただきたい。

小郡市 加地市長

- ・内水氾濫による被害が課題。
- ・宝満川沿川市町村の情報交換が大事。ハザードマップの境界地域のリスク評価の違いなど。
- ・雨量予測の精度や把握方法・タイミング、空振った時の水不足・補償の対応が事前放流の課題。

鳥栖市 橋本市長

- ・西田川周辺に関して、国で筑後川の水門等の整備に取り組んでもらいたい。
- ・交通渋滞の中で、大雨時の道路の冠水が課題。冠水が起きやすい場所にカメラを5台設置して、通行止め及びその解除の機動的な運用を始めている。
- ・コロナ禍でどう避難所を確保していくか。部屋ごとの人数制限や、セパレーターの活用、ホテルと協力してシングルルームを利用した事例もある。

佐賀市 白井副市長

- ・市街地を含めて広大にひろがる低平地であることや、筑後川上流からの流量が多いことに加え、大きな干満差といった地形条件によって、排水が難しいことが課題である。
- ・流域治水が重要視されるようになってきたことは、佐賀市として大いにありがたい。なぜなら、佐賀市は、市町村合併により脊振山地から有明海までの1つの市になったことで佐賀市の中で流域治水を実践できている、という実感を持っているから。
- ・農業用水路やクリークの事前放流は空振りがあるかもしれないが、大きな災害を防ぐためには大変重要で効果的であると考えている。
- ・被害の軽減や早期復旧・復興のためのあらゆる対策に積極的に取り組むことが重要。
- ・先進的な地域の取組を情報共有し、お互いに協力しながら取り組むことが大事。
- ・地域が違えば利害関係も違う。国が強いリーダーシップをもって推進していく必要がある。

大木町 境町長

- ・地域の連携姿勢が必要。リーダーシップを国にとってもらいたい。筑後川流域で連携システムが構築され、みんなで知恵を出し合って高めていければ良い。
- ・平地ダムの資源をいかに活用できるかが大事。筑後川流域全体でやればかなりの貯水量に

なる。そのためには、日頃からのクリーク整備が必要。持続的な交付金で行っていきけるよう国に財政的支援を求める。

大川市 倉重市長

・溢れやすいところは地元自治体がよく理解しているので、自分たちでピンポイントな排水を行っていかうとの考えから、市で可搬式ポンプを導入。その後、民間の企業も同じ物を購入したという例があった。行政が取り組む姿を見せることで、住民自身も取り組む雰囲気形成されていく。

・R3は砂と袋を自主防災組織に配り、梅雨前に土のうの準備を住民にそれぞれお願いしている。

・福岡県側の情報は入ってくるが、対岸の佐賀県側の情報が入ってこない。

・先行排水後の水の戻し方も課題。上流の自治体間で連携していきたい。

・流木による漁港の被害もある。超長期的には、山を大切にすることも治水の面から必要。

筑後川 松木所長

・国にリーダーシップを取って欲しいという意見は受け止める。

・森林整備に関する言及もあった。

・事前に減災や復旧を考えることも重要。

・持続的な維持管理のための地元での工夫、財政的な工夫についても考えていく。

・協議会に留まらず現地を見て、地元とより詳しい意見交換が出来れば良いと考える。

